

②特願昭 46-441249 ① 特開昭 48-9204

(¥2, 000-)



順(3)後記号なし



特許庁長官殿

1. 発明の名称

2. 発

守口市京阪本通2丁自18番 住 所

兰洋军機株式会社內

氏 名





8. 特許出願人

守口市京阪本通2丁目]8番地

(188) 三洋電機株式会社

4. 添付書類の目録

(1) 明

(2) 図

(3)顧

平面多助モータの助磁鉄心

特許請求の範囲

模方向に装着した終心の一方の背層端部に接方 向に積滑した雑鉄を重複すると共に、航記鉄心の 対向機構構能には一方向の振涛スロットとこのス ロットに直交する決薄スロットとを設けてなる平 顕移動モータの顕磁鉄心。

3. 発明の詳細な説明

本発明は交流電源によって駆動される平面移動 モータの励磁鉄心に関する。

従来回転還モータを重線状に展開することによ り得られるリニヤーモータは、直線運動を行う分。 断。たとえば鉄道に利用できることが紹介されて いる。ところがその応用は直線運動を行う分野に 阪定され、平直運動を行う分野には利用できない。 そこで本発明は直交する二方向に央々直線運動・ を行う一対のリエヤモールを一体に結合すること により平面移動モータを得ようとするもので以下 図面に基いて説明する。

43 公開昭48.(1973) 2.5 (全2頁) 審查讀求

19 日本国特許庁

公開特許公報

庁内整理番号

52日本分類

2/06 51 6728 51

55 A423

通常リニヤモータは回転数モータを直接状に形 顕することにより得られるがこのとをの監磁鉄心 (一次便鉄心)に直交方向に縦横2方向の巻兼を ・ 施してなるものが平面移動モーナの系統統心でそ の外継を第1圏に示す。圏において、(1)は横方郎 **に被雇した鉄心で、上方の機能端面には、磁気抵** 抗物少くするために様方向に積層した総数(2)を重 養し、輪配鉄心(1)の下面には、横方向の深沸スロ ツト(部ーと総方向の機構スロット(4)…とが設けら れている。鉄心印の大きさ及びスロット数はモー タの出力に応じて通ばれるが、スロット数は電源 が2相く単相電源からコンデンサで2相を作り出 するのを含む。うの場合には4の倍数になるよう 選び、3相の場合には6の倍数に選べばよい。(5) …は深薄スロット(8)…に個人され直線上に移動磁 野を生ずる機機線。(8)…は淡沸スロット(4)…に掃 入され前記移動磁界の方向と直交する直線上に移 助磁界を生ずる総務線である。

この状態で無線(5)(6)に交流電流が流れると関流 の時間的変化に伴って移動磁界が生じ、鉄心(1)と



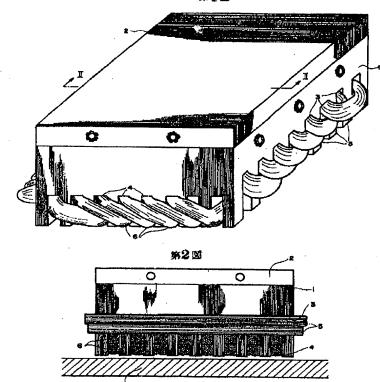


平面空隙を介して対向する2次導体的はこの移動 磁界につれて磁界の移動する方向に移動する。こ こで鉄心(1)が固定され、2次導体(7)が移動自在に 取付けられている場合には、2次導体(7)が平面移 動子になり、逆の場合には鉄心(1)が平面移動子に なる.

從つて幾線(5)(6)の一方に交流電流が供給される と平面移動子は一定の方向に移動し、また阿魯線 (5)(6) に交流電流を供給される場合には平面移動于 は2つの移動磁界の合力の方向に移動する。

以上の如く本発明によれば横方向に積層せる鉄 心の一方の横層端に、一方向の深溝スロットと、 このスロットと直交する浅沸スロアウとを設けた ので、との両スロットに直交方向に移動磁界を生 ずる2組の地線を挿入することにより平面移動を ータの励磁極をつくることができ、構造簡単且製 作容易となり、また前記図巻線を直交せしめたか ら、電源層波数及び前記両巻線の通電々減速変化 することにより平面移動子を平面上任意に駆動せ しめることができる。

第1四



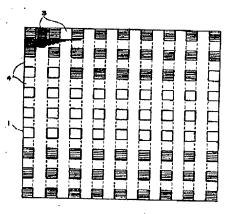
特朗 昭48-9204 (2) 4 図面の簡単な説明

図面は本発明の一実施例を示し、第1図は励磁 極の外観斜面図、第2図は第1図のⅡ~Ⅱ析面図、 第3図は動磁鉄心の底面図である。

(1)…鉄心、(2)…総鉄、(3)…深薄スロツト、(4)…浅 溝スロツト。

伸許出願人

第3网



5. 前記以外の発明者

キリグラ シャイハンキンドオリ テョウメ バンチ 守口市京阪本通2丁目18番地 住 所 氏 名 7